

安楽寺寺報

開光

第94号 涅槃会号 2020/2/15

発行所 〒737-0054 呉市上山田町2-28 安楽寺 TEL.0823-21-7561

聖徳太子の教え

信楽晃仁

先般、テレビで聖徳太子のことを特集していました。聖徳太子といえ



私たちは聖徳太子と言えば、奈良の法隆寺を思い浮かべ、奈良におられたと思われる方が多いと思います

先ず聖徳太子は最初に、大阪の広大な土地に四天王寺を建てられ諸外国との外交にあたられたと言ったこと

中でも興味深かったのは、なぜ聖徳太子が紙幣の肖像画に七回も印刷されたかと言ったことでした。紙幣に印刷された肖像画で一番多いのが聖徳太子です。

皇との関係から、当然許されなかつたわけですが、当時の一萬田日銀総裁が、聖徳太子の作られた『憲法七条』を持ち出し、その第一条を示して、聖徳太子は、平和主義者だと主張したそうです。

徳太子の事跡が残っている」と解説してくれました。今回は四天王寺系の資料を元に聖徳太子の業績を紹介しており、是非一度四天王寺にもお参りしてみたいと思つたことです。

三万坪という甲子園球場二つ分に相当する境内地を有し、その中にたくさんの立派な伽藍が並んでいます。



四天王寺

り、日本をコントロールするため、マッカーサーが日本にやってきました。そして新しい日本の国づくりを様々に指示しました。

安楽寺マンガ通信

その44 信楽めくみ作

「ものを見る眼」 信楽慧



昨年、秋、青森県の奥入瀬渓流に行くことができました。これはその時に撮った写真です。

紅葉と言えば「京都」を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、「青森県の奥入瀬渓流」はそれと並ぶ紅葉の名所として知られています。

例えるならば、「京都の紅葉」は計算され手が加えられた美しさであり、「青森の紅葉」は自然そのままの美しさでした。

そんな観光の最中、紅葉を絵に描くおじいさんに会いました。この写真に写るおじいさんの絵は、実際の風景を上手に描写しつつも、色味や部分部分のバランスが全く違うように描かれていました。

このことは、風景のみに限らず他の全ての事象においても言えることであり、各人にとっての「事実」とは全ては受け取り方、その人の価値観によってのみ決まるのではないかと思います。

普段から自分にとって都合の悪いことが起きるとイライラしてしまったりしていますが、この受け取り方を工夫することができれば、「自分にとって都合の悪いこと」も、又違った受け取り方ができ、人生を少しでも幸せにできるのではないかと思います。

れと後をりすあ経な来まし校首り日界ス混流 編集後記

Comic panel with purple virus-like characters and text about COVID-19 and anxiety.

Comic panel with icons of a TV, PC, and smartphone, discussing information society.

Comic panel featuring a character with a face mask and text about the importance of information.



太子と言え、親鸞聖人が大変尊敬された方です。『恵信尼文書』(親鸞さまの奥様のお手紙)には、親鸞聖人が比叡山での二〇年間の修行では納得がいかず、本間に皆が救われる教えを求めて、聖徳太子が創建されたと言われる六角堂にこ

もられたことが書かれています。百日ももられる中、九五目目に、親鸞聖人の夢に聖徳太子が現れ、夢告があったことを元に法然上人を訪ねられ、そして、又百日、その法然上人の所に通われて、まことのお念仏の教えにあわれたのです。

親鸞聖人ご自身も、正像末和讃に十一首、聖徳太子の御和讃を読まれています。その中に

「和国の教主聖徳皇
 広大恩徳謝しがたし
 一心に帰命したてまつり
 奉讃不退ならしめよ」

と「日本に初めて仏教を説きひろめて下さった聖徳太子の広大な恩徳は、どれ程感謝しても、し尽くせるものではない。その教えにしたがって、

一心に阿弥陀仏に帰命し、敬いたたえ続けるのだ」と言われます。「和国の教主」と「日本のお釈迦様」ともたたえられ、他の御和讃には、聖徳太子を観音菩薩の化身ともたたえられます。親鸞聖人に

とつて、聖徳太子はなくてはならない存在だったことが感じられます。その聖徳太子が顕された『憲法十

七条』には現代の私たちが忘れてはならないことが多々記されています。第一条には、前述しましたように、「和らかなるをもつて貴しとなし、

初に平和主義を示し、平和を実現することこそが、一番大切なことであることを宣言されます。その心が、当時のマッカーサーにも通じたのだと思います。

第二条には「篤く三宝を敬ふ。三宝とは仏・法・僧なり。」と仏法の敬うべきを示されます。この後に続いて、「すなはち四つの生れの終りの帰、万の国の極めの

宗なり。」とあり、全ての生きとし生けるものの最後のより所であり、全ての国の仰ぐ究極のより所こそ仏法である、とまで言われています。これ程、聖徳太子は仏教を大切に思われていたのです。

第四条には「群卿・百寮、礼びをもつて本とせよ。それ民を治むるの本、かならず礼びにあり。」と政治家、官僚は人民を治めようと思うならば、必ず礼儀をもつて振舞いなさい、と言われます。ところが現実には、私腹を肥やし、法を破り、暴言、ヤジと、お勧め下さる礼節とは真反対の無礼なことです。

第五条には「贅を絶ち欲を棄てて、あきらかに訴訟を弁めよ。」と欲望に走ることなく、先ず民の言葉に耳を貸すことが一番だと言われます。色々な問題があっても経済のためならばと言つて、政策を押し進めます。どれ程反対が多くても、カジノを作る話は進められます。ギャングルの依存症があれば危ぶまれているのに、この政策

はやめられないのでしょうか。経済優先で人々の幸せは後回しです。第六条には「悪しきを懲らし善れを勧むるは、古の良き典なり。」善を勧め、悪を正す政治でなければならぬといわれます。この言葉の後は「それ詭ひ詐くものは、国家を覆す」とへつらいや嘘は国をほろぼすといわれます。森友問題、加計問題、桜を見る会問題、様々な国会議員の不正、どれもこれもしつかりとした説明責任を果たさずに関係者はみんな口をつぐんだまま、うやむやのまま幕引きにしようとしていくようにしか見えません。日本は転覆の危機です。情けないことですが、背信行為を挙げればきりがありません。一四〇〇年前の聖徳太子の指摘は今ここに生きています。



今の世の中を聖徳太子が見られたらさぞかし歎かれることでしょう。どうか日本の国の原点に立ち返って、私たちがどう行動すべきか、皆が仏法に、そして、聖徳太子に学ぶべきであらうと思います。

お念仏のしずく

【信のめがね】

宗教を学び、信心に生きていくと言ふことは、そこに必ず「きびしさ」をともなうということでもあります。信心というのは、もともと自分を捨てると言う意味をもっています。世俗の中の価値を追い求めることやつきとなり、その充足に酔っているかぎり、宗教の世界はひらけてこないし、また信心は成り立つはずありません。自分自身を問うて、その内にひそんでいる虚妄を思い知り、それに深くめざめてゆくということ、すなわち自分をきびしく捨ててゆくということにおいてこそ、はじめて、まことの信心が成り立ってくるのであります。



念仏のみぞ、まことにておはします (歎異抄)

と語られているのは、まさしくそのことを意味するものでありましょう。煩悩具足の凡夫とは、現実のこの自分自身のことであります。いつもいつも、自分中心の心をいだいて生きている、この私自身のことです。火宅無常の世界とは、転変きわまりない現実のこの世界をいいます。そして、それごと、たわごと、まことあることなし、偽りであつて、何ひとつとして真実なるものはない、と言ふことでもあります。自分の人生生活に對する、きびしい問いつめであり、徹底した自己放棄であります。

親鸞聖人が「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもて、それごと、たわごと、まことあることなきに、ただ『この道をゆく』

安楽寺法要案内

| | | |
|----|-------|--|
| 三月 | 彼岸会 | 日時 3月14日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 東広島 明宝寺 藤井晃先生 講題 よりよく生きる |
| 五月 | 宗祖降誕会 | 日時 5月16日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 能美 勝善寺 法林英俊先生 講題 アミダのいのち |
| 六月 | 永代経 | 日時 6月20日(土) 昼席 6月21日(日) 朝席・昼席 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 長門 浄土寺 荻隆宣先生 講題 信心の智慧 |

善いゆめのお教誨

『どうどうめぐり』
 現在は、水掛け論的な論議をいつまでもやりとりして果てしないことをいいます。また国会で、投票による議決をする場合に、議員が青票・白票を持って行列をつくり、演壇上の箱に入れるあの方法を、俗に『どうどうめぐり』といいます。原意とはすつかり離れてしまいました。

原意は(堂々めぐり)で祈願や礼拝のために、仏像や仏堂のまわりを巡ることを行います。日本では僧侶だけが行う儀式になっていますが、インドやスリランカなどでは、在家信者たちも仏塔に詣るときには、仏塔のまわりを右回りに巡り歩き、正面に来る毎に礼拝し、これを何遍も繰り返す、とても敬虔な宗教行為です。



ところが最近この言葉の起りについて、別な考え方が出てきました。それは比叡山で行われる十日回峰行に由来するのではないかという説です。千日回峰行ではいくつものお堂を礼拝しながら巡り歩くことからという説、どうでしょうか。現在の国会中継をみても同じ答えを繰り返す姿が多く、全く『どうどうめぐり』で折角の言葉も時問も勿体ないこととす。